

基準地番号	提出先	所属分科会名	業者名	瀬崎不動産鑑定事務所
葛飾（都） - 12	東京都	区部第 1 2	氏名	不動産鑑定士 瀬崎 幹久

鑑定評価額	34,000,000 円	1 ㎡当たりの価格	374,000 円 / ㎡
-------	--------------	-----------	---------------

1 基本的事項

(1) 価格時点	令和 6 年 7 月 1 日	(4) 鑑定評価日	令和 6 年 7 月 3 日	(6) 路線価	[令和 6 年1月]	290,000 円 / ㎡
(2) 実地調査日	令和 6 年 6 月 26 日	(5) 価格の種類	正常価格	路線価又は倍率	倍率種別	倍
(3) 鑑定評価の条件	更地としての鑑定評価					

2 鑑定評価額の決定の理由の要旨

(1) 基準地	所在及び地番並びに「住居表示」等		葛飾区立石六丁目 1 8 7 番 1 「立石 6 - 1 0 - 6」				地積 (㎡)	91 ()	法令上の規制等		
	形状	敷地の利用の現況	周辺の土地の利用の状況		接面道路の状況	供給 処理施設 状況	主要な交通施設との 接近の状況		1 住居 (60,200) 準防 高度(2種) (その他)		
	1 : 2	住宅 W 3	住宅、アパートのほか店 舗も混在する住宅地域		南4.5 m 区道	水道、 ガス、 下水	青砥600 m		(70,180)		
(2) 近隣 地域	範囲	東 50 m、西 30 m、南 50 m、北 20 m		標準的使用	低層住宅地						
	標準的画地の形状等		間口 約 7 m、奥行 約 14 m、		規模 100 ㎡程度、		形状 長方形				
	地域的特性	特記 特にない		街 基準方位北、 4 . 5 m区道	交通 青砥駅西方600 m	法令 1 住居 (70,180) 準防 高度(2種)					
		事項		路	施設	規制					
地域要因の将来予測		一般住宅やアパートのほか店舗も混在する既成の住宅地域で、特段の変動要因は認められず、しばらくは現状を維持するものと予測する。									
(3) 最有効使用の判定		低層住宅地				(4) 対象基準地の 個別的要 因	方位			+5.0	
(5) 鑑定評価の手法 の適用		取引事例比較法	比準価格 382,000 円 / ㎡								
		収益還元法	収益価格 222,000 円 / ㎡								
		原価法	積算価格 / 円 / ㎡								
		開発法	開発法による価格 / 円 / ㎡								
(6) 市場の特性		同一需給圏は京成本線、京成押上線沿線で、概ね葛飾区の中央部に存する住宅地域。需要者の中心は、葛飾区内を中心に隣接する区や市に居住する 3 0 代から 4 0 代の一次取得者層が多くを占める。「青砥」駅または「京成立石」駅から徒歩圏内に位置する住宅地域であり、需給は概ね安定的である。市場の中心価格帯は、土地が 8 0 ㎡前後で 3 0 0 0 万円程度、新築の戸建住宅が 4 5 0 0 万円 ~ 5 0 0 0 万円程度である。									
(7) 試算価格の調整・ 検証及び鑑定評価 額の決定の理由		自用目的の取引が中心で、「青砥」駅または「京成立石」駅を最寄り駅とする類似地域において信頼性のある取引事例を収集し採用することで実証的な比準価格が得られた。一方、賃貸物件として共同住宅も見受けられるが、収益性より居住の快適性を重視する当該地域においては、収益価格の説得力は相対的に劣るものと判断する。従って、比準価格を重視し、収益価格を比較考量して、標準地及び指定基準地との検討を踏まえ、鑑定評価額を上記のとおり決定した。									
(8) 公規価 示準格 価とし 格しを た	代表標準地	標準地	時点 修正	標準化 補正	地域要 因の比 較	個別的要 因の比 較	対象基準地 の規準価格 (円 / ㎡)	内 訳	標 街路 0.0	地 街路 0.0	
	標準地番号						準 交通 0.0		域 交通 -2.0		
	葛飾	- 26					化 環境 0.0		要 環境 +5.0		
	公示価格		[102.0]	100	100	[105.0]	371,000	補 画地 +2.0	因 行政 0.0		
	364,000 円 / ㎡	100	[102.0]	[102.9]	100	正 行政 0.0		その他 0.0			
						その他 0.0					
(9) 指か 定ら 基の 準検 地討	指定基準地番号		時点 修正	標準化 補正	地域要 因の比 較	個別的要 因の比 較	対象基準地 の比準価格 (円 / ㎡)	内 訳	標 街路 0.0	地 街路 +2.0	
	葛飾(都)	- 9					準 交通 0.0		域 交通 +2.0		
							化 環境 0.0		要 環境 +18.0		
	前年指定基準地の価格		[104.9]	100	100	[105.0]	374,000	補 画地 +1.0	因 行政 +1.0		
	425,000 円 / ㎡	100	[101.0]	[124.0]	100	正 行政 0.0		その他 0.0			
						その他 0.0					
(10) 対年ら 象標の 基準検 準価討 地格の等 前か	- 1 対象基準地の検討 継続 新規 前年標準価格 354,000 円 / ㎡			価 変 動 形 成 状 況 要 因 の	〔一般的 要因〕	葛飾区内の人口及び世帯数はこの 1 年間で増加し、景気はこのところ足踏みもみられるが緩やかに回復しており、地価は上昇傾向にある。					
	- 2 基準地が共通地点(代表標準地等と同一地点) である場合の検討					〔地域 要因〕	地域要因に特段の変動要因は見られない。需要に比べ供給は少ないが、比較的安定的に推移している。				
	代表標準地	標準地	〔個別 的要 因〕				個別的要因に変動はない。				
	標準地番号										
	公示価格	円 / ㎡									
	変動率	年間 +5.6 %		半年間 %							